

第1回幼保連携部会 会議要旨

とき 令和元年9月9日（月）
ところ 庁舎1階まなびの広場

※会議の主な内容は以下のとおり

部会長：定刻になったので、第1回幼保連携部会を開始する旨を告げる。
(14:30 開始)

※辞令交付及び委員の自己紹介を行う

事務局：北方学園構想について、基本計画の内容に沿って概要を説明。続いて開校準備委員会と専門部会の役割や今後の協議の進め方、日程、こども園の施設イメージ等について説明する。

事務局：続いて、こども園の概要について説明する。(認定子ども園の特徴、類型比較など)

部会長：資料などを参考にして、各委員が疑問に思っていることや新しいこども園に対する夢や思いなどを自由に協議することとする。

(主な協議内容)

○認定こども園の類型比較について、どの点が特に配慮が必要なのですか。

⇒例えば、給食の提供の面で、幼稚園型だと3歳未満児は自園調理が必要となりますが保育所型なら給食センター調理方式が採用できます。また、幼稚園型の園舎は原則2階建てまでですが、保育所型なら3階建てでも可となります。

⇒施設の面を考えれば保育所型が望ましいのですか。

⇒類型比較すると幼稚園型とか保育所型とかに分類されるが、それによって「認定こども園」としての園の運営方法が大きく変わるわけではないです。今後、北方町にとって一番適した方式を検討したいです。

○町立幼稚園が無くなるのなら、幼稚園型のこども園にした方がいいのではないですか。

⇒子どもの数が減っていくなかで、町内の幼稚園・保育園のあり方についても考えていかなくはなりません。例えば北方には私立幼稚園があるから町は保育園を運営する、あるいは将来は保育園の民営化という考え方もあります。町が保育園を維持するには施設の建て替え等も考えなくてはならないし、今後より良い方法を皆さんと検討したい。

⇒出生数は減ってきているのに、未満児保育の希望者は増えてきているなど、保育のニーズも変化してきている。そのあたりも今後の検討のなかで考慮しなければならない点です。

○こども園の出入り口や送迎の際の導線はどうなるのですか。

⇒詳細は今後、施設部会とも協働して検討すべき内容ですが、安全面に配慮してスムーズな車輛の移動経路を確保したいと思います。

○せっかくの施設なので、小学校の低学年とこども園の園児との交流を図りたいです。

⇒義務教育学校で、15歳の卒業までの教育課程を作ったら、それをこども園のカリキュラムにも反映させるとよいのではないですか。

⇒こども園は北方学園のスタート地点としてうまく連携していけるようにすることが大切だと思います。

○遊具も設置するし、こども園の園庭が小さいのではないですか。

⇒学園全体の施設を活用して使うことができるので、余裕はあると思います。

⇒しかし、細かい話ですが行事の計画とその練習の日程等を突き詰めて考えると、どの時期にどのくらいの広さが必要になるのかという調整が必要になり、義務教育学校との行事とかぶらないか、どちらが優先なのかということになってきます。今後、いろいろな点から検討する必要があります。

○幼稚園の通園バスはどうなるのですか。

⇒今後の検討課題です。

⇒通園バスの有無はこども園への入園の考慮材料となるため、令和3年度の幼稚園入園者へはその方針を伝えなくてはならないです。

○10月から保育料が無償化されるため、私立幼稚園への入園希望増えるかもしれない。今後、町への保育ニーズにも影響があるかもしれないです。

○北方小学校の北舎をこども園の園舎に改修すると、トイレが少ないのではないですか。

⇒今後のクラス配置も含めて今後の検討課題です。

部会長：1回目の協議は以上とする。次回までに今後の部会での検討項目を精査しておく。

また、次回の部会の日程は、11月6日（水）午後2時30分とする。

（16:00 終了）